

1 目的

- (1) TT指導や少人数指導を取り入れ、個を大切に学習活動を進めます。また、朝学習の時間を活用し、反復練習などを行い、基礎・基本の確実な定着を図ります。
- (2) 場の状況をつかみ、自分の思いや考えを分かりやすく相手に伝える力、相手の思いや意図をつかみながら聞く力など、「伝え合う力」を育みます。

2 内容

(1) 繰り返し学習

日々の授業や個別指導の場面、朝学習の時間に授業の復習（漢字、計算の反復練習）を行いました。また、9月・1月の始めに算数コンテストを行って学習成果の見える化を図り、児童が学習の基礎・基本を身に付けているか、自分の成長を振り返りました。

(2) 指導力向上

次期学習指導要領の柱の一つである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究に取り組みました。算数科を中心とした研究授業を全担任が行い、互いに研修を深めました。研究授業後には教師相互の協議だけでなく、外部より講師（愛知教育大学数学教育講座の青山和裕先生、桜小学校の遠藤孝先生）を招いて、授業に関する助言を受け、指導力の向上を図りました（年5回）。



【自分の考えを発表する児童】

(3) 環境づくり

- ・ 言語活動の基となる「話すこと」「聞くこと」に焦点を当てた活動（コミュニケーション能力の育成）を継続して行いました。ハッピートークでは、講師を招き、相手を意識した話し方・聞き方を児童に学ばせ、言葉で伝え合う力を育てました。
- ・ 授業の中で対話的な活動に重点を置き、ペアやグループでの話し合い活動を行い、ふり返りの時間を設けました。他者との対話だけでなく自己との対話の時間を設けたことで、自分の考えを広めたり深めたりする力を養いました。
- ・ 児童が培った「話すこと」「聞くこと」の力を生活の中で活かせる場面（朝の会、帰り会、授業参観での発表等）を設定し、様々な体験を重ねていくことにより、しっかりと話す態度・聞く態度が身に付けられるようにしました。

3 評価

- (1) 繰り返し学習を行うことで、学習の基礎となる計算力や漢字を読み書きする力、学習習慣が身に付いてきました。
- (2) 外部講師を招いて、算数科を中心に研究授業を行い、研修を深めました。問題提示の仕方や教材教具を工夫したり、具体物を操作したりする活動を取り入れたことで、抽象化された思考が苦手な児童も理解が容易になり、自分の考えを図や表にまとめたりする等、視覚的に表現することができました。
- (3) 様々な体験を通して、低学年では、児童が安心して自分の考えを伝えることができるようになり、高学年では、話し合いのルールを決めることで活発な意見交換を行うことができました。さらに、振り返りなどの自己内対話を行う時間をもつことで、友達との相違点や類似点に気付いたりして、主体的に学び合う児童の姿が見られました。

4 課題

基礎学力や学習習慣の定着をさらに図るとともに、培ってきた「話すこと」「聞くこと」の力を基にして、各教科や様々な活動を通して、多様な意見を出し合い、学び合う活動を大切にし、児童の伝え合う力と主体的に学ぼうとする意欲をより高めていきたいと考えます。